

渡邊 順平先生:(2010)41:674-679

“シスタチン C と無症候性頸動脈硬化症の心血管イベントリスク”

Cvstatin C and the Risk for Cardiovascular Events in Patients With Asymptomatic Carotid Atherosclerosis.

【背景】CKD が、心血管イベントの独立したリスクファクターであると報告され、尿中アルブミンや eGFR などの surrogate marker と心血管イベントの相関についての研究がすすめられてきましたが、今回、早期のCKDのマーカーとして期待されているシスタチンC(Cys C)について検討されました。

【方法】超音波により無症候性頸動脈硬化症の診断を受けた 1364 名に対し、始めの6ヶ月で心血管イベントを起こした人等を除外した 1004 名について Cys C、クレアチニン、eGFR 値とその後の、心血管イベント、脳卒中、死亡の進展についての検討が行われました。

【結果】平均年齢 69 歳、BMI26.1 の対象で平均 Cys C は 0.69、eGFR は 66 でした。Cys C 値と、脂質異常症の相関はなく、DM、HTとは相関していません。また、Cys C 値はHbA1c、Cr値、eGFRとも相関を認めました。Cys C のレベルを4群に分け、その後の心血管イベントリスクを Life table 分析にて評価した結果、Cys C レベルが上昇するにつれ緩やかに心血管リスクが増加していることが明らかになりました。また、MACE (Major Adverse Cardiovascular Event) のHRは、Cys C の上位2群で有意に上昇していましたが、Crや eGFR では、相関を認めませんでした。同様に、死亡、心筋梗塞、脳卒中のリスクと、Cys C の上位 1 群との相関は認めましたが、Crや eGFR での相関は認めませんでした。

【結論】無症候性の頸動脈硬化症患者は、心筋梗塞、狭心症のハイリスク患者ですが、その裏に、CKD が隠れているようです。今後、シスタチンCの展開が注目されます。(文責 阿比留)